

## 「スペイン広場」

森崎修太さんの「スペイン広場」は不思議な絵である。部屋を少し暗くして凝視し、目を閉じるとあたかも深い森の中にいるような静寂と安らぎを覚える。

ローマのスペイン広場と言えば、誰もが「ローマの休日」のオードリー・ヘップバーンに魅せられた昔を思い出し、トリニタ・デイ・モンティ教会に向かう石段にたむろする大勢の老若男女(その多くは観光客であるが)の喧騒を思い浮かべる。ところがどうだろう。修太さんは見事にこれらを切って見せた。僅か18人がそれも総て背を向け

てひっそりと佇んでいる。実在するものを捨てたり、実在しないものを登場させたり、実在するものの場所や形や色を変えるのが画家の感性であるように、それをどのように受け止めるのかは見る者の感性

であるから、そこに新たな感性の世界が広がり、修太さんの内面を想像する面白さが生まれる。画家に感性の歴史があるように、見る者にも感性の変化がある。

「スペイン広場」に何を感じるようになるのか、これからも楽しみである。

スペイン広場の近くで孫娘の服を買った。その孫娘が(今はもう中学生になるが)守口の京阪デパートで開かれた油彩展の会場で修太さんと写った写真がある。この写真を見ると、時には絵画とは対極に位置する違った感性 理性と言うべきか を直感する。絵画とは画家とは一体何なんだろう。修太さんの今後を楽しみにしている。

大阪府 寝屋川市在住

中川 照眞



「光射す港町」15F ~ラ・ロシェル~ 油彩

## DM作品・紹介

「ラ・ロシェルでの感動が修太カラーに変身し新しい意気込みが感じられる作品となって登場しました。空に舞う鴉たちは春の訪れを知っているのでしょうか・・・。」



前回個展会場にご来場になった皆様



## 「絵との出会い」



大阪府 寝屋川市在住 池田 順子

それは一枚のダイレクトメールとの出会いでした。

普段はダイレクトメールなど「どうせ宣伝だから」とバカにして良く見もせず捨ててしまうのですが、その時はそこに描かれている絵に魅入ってしまったのです。主人とは絵の好みは違いますがどのような意見を言うだろうと、一応そのダイレクトメールを見せたところ【良い絵だなー。明日買いに行こう】と珍しく意見が一致したのでした。

早速その絵を買いに心弾ませながら行きましたが、残念ながら売約済みでした。しかし他の絵を鑑賞する内に心が穏やかになって来ました。それは森崎先生の色彩のマジックがキャンバスいっぱい籠められていたからでしょう。先生ご自身の人柄も絵に反映しているのかもしれませんが。当地での「森崎 修太 油彩展」は二年に一度ですが、いつもその日を待ち焦がれている私達夫婦です。又、年齢と共にどのように色彩が変化して行くのか、それも楽しみの一つでも有ります。



## ＝春の季節をよみ＝



## 画家の視線 シリーズ

### 「冬の旅」

昨年、Paris から TGV に乗って大西洋に接する港町ラ・ロッシュを旅しました。グレーの空から吹きつける曇（みぞれ）まじりの風はヨットのマストを鳴らし鷗の鳴き声もが一人旅の心まで震えあげる冷たさがありました。マフラーを巻き直し港のカフェのドアをあければ、そこにはシケで海に出れない漁師達もてあそぶ時間をカードに興じながら酒を飲んでいて、ストーブの近くには犬が寝そべり極楽の様です。 熱いショコラを注文し、この町の地図を広げながら明日からの予定<・・・予定を立ててはみるが、どうしてもよい予定であって足の向くまま気のむくままが常で・・・>を立てながら、うまいショコラが心まで沁みわたってゆく穏やかなユツタリとした気分を楽しむのです。明日からどの様な出会いが待っているのか、カラッポになった頭の中にフレッシュな空気をもった風景が飛び込み、埋めてくれるのが楽しみです。これで、又旨いメシが食べられれば最高ののですが・・・。

森崎 修太



## お知らせコーナ 今後の「修太個展」予定

- |    |           |          |
|----|-----------|----------|
| 05 | 5/3～5/9   | ・・・福岡三越  |
| 05 | 7/13～7/19 | ・・・神戸大丸  |
| 05 | 9月下旬      | ・・・名古屋三越 |
| 05 | 11月下旬     | ・・・仙台三越  |

